

期における抗精神病薬の至適用. 第49回日本神経精神薬理学会. 福岡, 10月.

- 19) 松田勇紀, 鬼頭伸輔. (シンポジウム12: TMSの臨床応用) Hコイルを用いた深部経頭蓋磁気刺激によるうつ病治療. 第49回日本臨床神経生理学会学術総会. 福島, 11月.
- 20) 平林万紀彦. (シンポジウム3: 高齢者の痛み-特色をふまえた治療アプローチ) 高齢者特有の慢性痛にどう対処するか~痛みは脳で修飾される~. 第32回日本老年麻酔学会. 倉敷, 2月.

IV. 著 書

- 1) 中村 敬. 第3章: 精神療法が根をもつこと. 井上和臣編著. 精神療法の饗宴. 東京: 誠信書房, 2019. p.76-95.
- 2) 布村明彦. 第II部: 老年期の精神科臨床で遭遇する疾患と臨床神経病理 第1章: アルツハイマー病. 日本老年精神医学会監修, 入谷修司編. 認知症専門医のための臨床神経病理学. 東京: ワールドプランニング, 2019. p.31-9.
- 3) 中村 敬, 本田秀夫, 吉川 徹, 米田衆介編. 日常診療における成人発達障害の支援: 10分間で何ができるか. 東京: 星和書店, 2020.
- 4) 山寺 亘, 伊藤 洋. 各論 II: 非薬物療法 3. 精神療法. 内山 真編. 睡眠障害の対応と治療ガイドライン. 第3版. 東京: じほう, 2019. p.151-5.
- 5) 常泉百合, 品川俊一郎. 【臨床に役立つエッセンス】 9. 抗うつ薬や抗精神病薬を投与する際の注意点は? 高齢者の認知症・うつ病と関連疾患31のエッセンス: プライマリケアで診る. 東京: 医歯薬出版, 2019. p.53-9.

小 児 科 学 講 座

講座担当教授:	井田 博幸	先天代謝異常
教 授:	大橋 十也	先天代謝異常 (遺伝子治療研究部に出向中)
教 授:	浦島 充佳	臨床疫学 (分子疫学研究部に出向中)
教 授:	和田 靖之	小児感染免疫学
教 授:	勝沼 俊雄	小児アレルギー学
教 授:	宮田 市郎	小児内分泌学
教 授:	川目 裕	先天異常 (遺伝診療部に出向中)
教 授:	加藤 陽子	小児血液腫瘍学 (輸血・細胞治療部へ出向中)
准 教 授:	齋藤 義弘	小児感染免疫学
准 教 授:	小林 博司	先天代謝異常 (遺伝子治療研究部に出向中)
准 教 授:	田知本 寛	小児アレルギー学
准 教 授:	小林 正久	先天代謝異常, 新生児学
講 師:	秋山 政晴	小児血液腫瘍学
講 師:	高畠 典子	小児消化器
講 師:	日暮 憲道	小児神経学
講 師:	平野 大志	小児腎臓病学
講 師:	櫻井 謙	先天代謝異常

教育・研究概要

I. 代謝研究班

本年度も引き続きライソゾーム病の遺伝子治療に関する研究を行った。対象疾患はムコ多糖症II型、ならびにGM1 ガングリオシドーシスである。今年度はヒト造血幹細胞への遺伝子導入の最適化を行った。半自動的に遺伝子を細胞に導入できる機器である CliniMACS Prodigy を購入し、ヒトへの投与を見越してタカラバイオ社の研究室内に設置した。結果、ヒト造血幹細胞を含む CD34 陽性細胞に、レンチウイルスベクターを用いて効率よくムコ多糖症II型の欠損酵素遺伝子を導入できる系を立ち上げることに成功した。また、JCR ファーマ社との共同研究で、血液脳関門通過型酵素を発現するアデノ随伴ウイルスベクターを開発し、GM1 ガングリオシドーシスモデルマウスで試験をしたところ期待の持てる効果を確認した。さらに、厚生労働省のライソゾーム病研究班にも参画し、ガイドラインの作成、レジストリーの構築、患者への最新治療に関するアンケート調査を行った。

II. 神経研究班

基礎研究では、高解像度小動物用MRIにより前年度に見出した、ドラベ症候群モデルラット脳でのんかん発症段階で生ずる機能変化についてさらなる解析を行い、その所見の再現性を確認するとともに背景病態の解明にも成功した。また、PCDH19関連でんかんの病態について、iPS細胞から作成した大脳オルガノイドや成熟神経細胞において神経成熟特性の変化を確認した。臨床研究では、1. 神経疾患の免疫グロブリン治療の有害事象の危険因子、2. 同一発熱中の熱性けいれん再発予測因子、3. 欠神発作重積における頭脳脳波での高周波振動の増大、4. ウエスト症候群におけるビタミンB₆治療の有効性と安全性、5. 血清 matrix metalloproteinase-9 と tissue inhibitor of metalloproteinase-1 値と自己免疫性脳炎の神経学的予後との関連、についてそれぞれ明らかにし論文報告を行った。

III. アレルギー研究班

主な研究対象は、1. 基礎分野（マスト細胞、好酸球、気道上皮細胞）、2. 喘息、3. 食物アレルギー、4. アトピー性皮膚炎、5. アレルギー治療、6. アレルギー疾患の予防研究である。2019年度には、生後1日目より母乳に少量の通常ミルクを加える場合と比較し、生後3日間母乳にアミノ酸乳を与えることにより、2歳までの牛乳蛋白に対する感作のみならず、卵白や小麦等への食物アレルギーの即時反応およびアナフィラキシー反応が大幅に減少することをランダム化臨床試験で証明し論文報告した。また現在、喘息、食物アレルギー治療に関して、いくつかの大規模介入研究を行っている（1. DIFTO study (Daily versus intermittent Inhaled fluticasone in toddlers with recurrent wheezing; A multicenter, double-blind, randomized controlled study)、2. MADEC study (Efficacy of a moisturizing cream in the treatment of atopic dermatitis in children)、3. Primary prevention of food allergy by restricting maternal intake of processed meat and others during first month after birth)。

IV. 血液腫瘍研究班

日本小児血液・がん学会血小板委員会における活動で、小児難治性血小板減少性紫斑病（ITP）の治療におけるトロンボポエチンアナログの使用状況や用法を調査した。さらに、小児難治性ITP治療ガイド2019を作成した。また、難治性小児脳腫瘍に対する新規樹状細胞治療の第1/2相臨床試験を

行っている。網膜芽細胞腫の長期フォローアップを支援するパンフレットを看護学科の永吉講師を中心に国立がん研究センターと協力して作成した。

V. 感染免疫研究班

研究対象となる疾患は、原発性免疫不全症、自己炎症性疾患、感染症、自己免疫疾患で、病態解析および治療法の開発研究を行なった。新たな治療法開発として、「慢性肉芽腫症腸炎に対する小児用サリドマイド製剤の実用化に関する研究」で医師主導試験を実施している。また、厚生労働省難治性疾患政策研究事業として、「自己炎症性疾患とその類縁疾患の全国診療体制整備、重症度分類、診療ガイドライン確立に関する研究」では、新規の自己炎症性疾患の診療ガイドラインの作成を行なった。臨床研究では、小児の敗血症・菌血症の早期診断を目的とした網羅的細菌ゲノムDNA解析の研究、可溶性PD-L1と免疫寛容に関する研究、慢性肉芽腫症におけるBCGワクチン関連感染症の研究を中心にを行い、宿主免疫と感染症に関して検討した。

VI. 循環器研究班

基礎的研究は、成長期心不全におけるリバーシブルモデリングのメカニズムの解明、APCA発現モデルラットを用いた新生血管発現量の定量化およびその時間的推移の検討、右室圧負荷ラットモデルにおける2D-speckle trackingとDiffusion tensor imagingの線維化評価、気管支肺異形成症モデルマウスにおける肺動脈平滑筋細胞に与えるHIF-1 α の影響評価、遺伝子改変マウスを用いた洞結節の分化と機能の解析を行った。臨床研究は、QT延長症候群の遺伝子解析と管理における薬物負荷試験の有用性検討を行った。

VII. 腎臓研究班

臨床研究では、昨年から引き続き、日本小児腎臓病学会の統計調査委員会のメンバーとして希少及び難治性腎疾患の疫学調査研究（末期腎不全、ANCA関連血管炎）を行っている。また、埼玉県立小児医療センターにおいて、紫斑病性腎炎に対する扁桃摘出術＋ステロイドパルス療法による再発予防効果を明らかにし、論文報告を行った。基礎研究では、ムコ多糖症II型マウスの造血幹細胞を標的とするレンチウイルスベクターを用いたex vivo遺伝子治療前処置におけるACK2の有効性を評価する研究の論文を投稿中である。

Ⅷ. 内分泌研究班

基礎研究では、大学院生が国立成育医療研究センター分子内分泌研究部にアランスキヤニング変異導入法により甲状腺特異的転写因子 PAX8 の paired domain における系統的機能解析を行い、N 末端サブドメインが機能的に特に重要であることを明らかにした。臨床研究では、インスリン受容体に新規の変異を有する Rabson-Mendenhall 症候群の女子症例における IGF-1 治療の有効性についてまとめた論文が日本糖尿病学会の official journal である「糖尿病」の 2019 年 12 月号に掲載された。また、眼科とも共同研究を行い、日本人初となる BBS1 遺伝子に新規変異を有する Bardet-Biedl 症候群女児例の分子遺伝学および臨床的検討について発表した。本症例に認められた眼底所見と網膜電図所見との不均衡は BBS1 関連網膜色素変性の一つの特徴である可能性が示唆された。論文化も行い、Documenta Ophthalmologica に掲載された。

Ⅸ. 新生児研究班

教育では若手小児科医への新生児医療研修を大学および埼玉県立小児医療センターで行った。基礎研究では、流体力学を応用した新しい気流体メカニズムによる呼吸補助装置バイパスネーザル CPAP 素子を東京大学地震研究所と共同開発したため、現在、臨床応用モデル肺を用いての検証中である。また、低出生体重児の脳障害予防や自閉症スペクトラムの病態解明への臨床応用を期待して、透過型時間分解分光法による脳組織酸素飽和濃度測定法の開発を目指し、浜松フォトニクス社と共同研究を開始した。AMED 研究では国立精神神経センター神経研究所と共同で、新生児低酸素性虚血性脳症の重症度マーカーおよび治療創薬として LOX-1 の研究を継続した。臨床研究では、米国 Nationwide Children's Hospital との国際共同研究である「神経発達障害のリスクが高い乳児を対象とした母親の声による介入の無作為化比較対照試験 (CPA Study)」を開始した。

〔点検・評価〕

本講座の特性に、代謝、神経、アレルギー、血液腫瘍、感染免疫、循環器、腎臓、内分泌、精神、新生児と、多くの研究領域が単一講座内に存在することが挙げられる。これにより異分野間での情報共有がしやすく、大学をはじめ、分野ごとに各関連施設とも連携し研究の質のアップが図れている。一方、診療においても講座内のみならず、外科系など他の

関連診療科とのシームレスな連携体制を形成しており、多くの専門領域による診療が必要な患者など、現在の医療ニーズにあった診療体制と良好な教育環境を形成している。2019 年度は、教育においては 8 名の入局者を迎えることができ、研究成果も英文業績を含め安定して出すことができた。各研究班の点検・評価は以下の通りである。

代謝研究班は、ムコ多糖症Ⅱ型の遺伝子治療に関し、臨床応用可能なヒト造血幹細胞への遺伝子導入の系を立ち上げたことは大きな進捗であるが、AMED への申請は非採択であり、今後、非臨床試験にかかる多額の資金を準備する方策を立てる必要がある。一方、血液脳関門通過型酵素を用いた遺伝子治療法は期待できる結果が得られたが、さらに詳細な基礎データにより検証する必要がある。

神経研究班は、基礎研究において、てんかん領域ではこれまで報告のない新たな研究手法を積極的に取り入れ、新規の病態知見を見出すことに一部成功しているが、これらについて早期の論文報告が望まれるとともに、今後の飛躍が期待される。臨床研究では様々な臨床的疑問について着実に検討を進め、論文報告に結実していることが評価される。

アレルギー研究班は、若手と中堅による英語論文が 12 編に上ったこと、そして研究班を超えた食物アレルギー発症予防に関する臨床研究が誌上発表されたことは好ましい成果である。今後もこのペースを維持、発展できるように各自研究を進めると同時に、後進・時短勤務医師の指導にもさらに注力する必要がある。

血液腫瘍研究班は、前年度から継続中の複数の研究プロジェクトについて、次年度を目標にまとめることが期待される。

感染免疫班は、AMED 難治性疾患実用化事業として、慢性肉芽腫症腸炎に対する新たな治療法を開発するために、国内 7 施設共同の医師主導治験を実施しており、将来的に難病治療につながる成果が期待される。自己炎症性疾患は希少疾患であるが、国内外をデータを集積し診療ガイドラインの作成に向けた取り組みの継続が求められる。

循環器研究班では多彩な心疾患モデルを用いた基礎研究を発展させると同時に、PICU 機能を有する病院を中心に重症心患治療に関する臨床研究も進めており、これらについて次年度以降に成果に結実させることが期待される。

腎臓研究班は、臨床研究で「ネフロン数」に関する研究を開始したため、次年度に本格的解析に移行する。また、引き続き学会と共同で難治性腎疾患の

疫学調査研究を継続する予定である。基礎研究では、次年度から他施設との共同研究を開始する予定であり今後の発展が期待される。

内分泌班は、関連学会で活発に報告を行い、原著論文においては英文、和文ともに質の高い学術誌に掲載されたことが評価される。今後さらに英文の原著論文を増やしていくことが期待される。

新生児班は、若手医師への新生児医療研修を実施し、周産期医療向上に貢献していることは評価される。また、基礎研究・臨床研究とも軌道に乗り、国内外での関連学会や講演会などで活発に発表を行っており、今後の発展が期待される。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Fisher RS, Cross H, D'Souza C, French JA, Haut S, Higurashi N, Hirsch E, Jansen FE, Peltola J, Moshé SL, Perucca E, Lagae L, Roulet-Perez E, Schulze-Bonhage A, Scheffer IE, Somerville E, Sperling MR, Wiebe S, Yacubian EM, Zuberi S. Classification as autonomic versus sensory seizures. *Epilepsia* 2019; 60(9) : 2003-5.
- 2) Fisher RS, Cross H, D'Souza C, French JA, Haut S, Higurashi N, Hirsch E, Jansen FE, Peltola J, Moshé SL, Perucca E, Lagae L, Roulet-Perez E, Schulze-Bonhage A, Scheffer IE, Somerville E, Sperling MR, Wiebe S, Yacubian EM, Zuberi S. 2017 International League Against Epilepsy classifications of seizures and epilepsy are steps in the right direction. *Epilepsia* 2019; 60(6) : 1040-4.
- 3) Hirano D, Inoue E, Sako M, Ashida A, Honda M, Takahashi S, Iijima K, Hattori M, Japanese Society of Pediatric Nephrology. Clinical characteristics at the renal replacement therapy initiation of Japanese pediatric patients: a nationwide cross-sectional study. *Clin Exp Nephrol* 2020; 24(1) : 82-7.
- 4) Hirano D, Oda T, Ito A, Kakegawa D, Miwa S, Umeda C, Takemasa Y, Tokunaga A, Wajima T, Nakaminami H, Noguchi N, Ida H. Glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase of *Mycoplasma pneumoniae* induces infection-related glomerulonephritis. *Clin Nephrol* 2019; 92(5) : 263-72.
- 5) Hirano D, Ishikawa T, Inaba A, Sato M, Shinozaki T, Iijima K, Ito S. Epidemiology and clinical features of childhood-onset anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis: a clinicopathological analysis. *Pediatr Nephrol* 2019; 34(8) : 1425-33.
- 6) Igarashi G, Segawa T, Akiyama N, Nishino T, Ito T, Tachimoto H, Urashima M. Efficacy of Brazilian propolis supplementation for Japanese lactating women for atopic sensitization and nonspecific symptoms in their offspring: a randomized, double-blind, placebo-controlled trial. *Evid Based Complement Alternat Med* 2019; 2019 : 8647205.
- 7) Ikemoto S, Hamano S, Yokota S, Koichihara R, Hirata Y, Matsuura R. High-power, frontal-dominant ripples in absence status epilepticus during childhood. *Clin Neurophysiol* 2020; 131(6) : 1204-9. Epub 2020 Mar 19.
- 8) Iwahashi M and Narumi S. Systematic alanine scanning of PAX8 paired domain reveals functional importance of the N-subdomain. *J Mol Endocrinol* 2019; 62(3) : 129-35.
- 9) Katsunuma T, Fujisawa T, Maekawa T, Akashi K, Ohya Y, Adachi Y, Hashimoto K, Mizuno M, Imai T, Oba SM, Sako M, Ohashi Y, Nakamura H. Low-dose l-isoproterenol versus salbutamol in hospitalized pediatric patients with severe acute exacerbation of asthma: a double-blind, randomized controlled trial. *Allergol Int* 2019; 68(3) : 335-41.
- 10) Kitazawa H, Yamamoto-Hanada K, Saito-Abe M, Ayabe T, Mezawa H, Ishitsuka K, Konishi M, Nakayama SF, Michikawa T, Senju A, Tsuji M, Kusuhara K, Sanefuji M, Ohga S, Oda M, Mitsubuchi H, Katoh T, Ikegami A, Mise N, Matsumoto K, Saito H, Ohya Y. Egg antigen was more abundant than mite antigen in children's bedding: findings of the pilot study of the Japan Environment and Children's Study (JECS). *Allergol Int* 2019; 68(3) : 391-3.
- 11) Kubota J, Hamano SI, Daida A, Hiwatari E, Ikemoto S, Hirata Y, Matsuura R, Hirano D. Predictive factors of first dosage intravenous immunoglobulin-related adverse effects in children. *PLoS One* 2020; 15(1) : e0227796.
- 12) Kubota J, Higurashi N, Hirano D, Isono H, Numata H, Suzuki T, Kakegawa D, Ito A, Yoshihashi M, Ito T, Hamano SI. Predictors of recurrent febrile seizures during the same febrile illness in children with febrile seizures. *J Neurol Sci* 2020; 411 : 116682. Epub 2020 Jan 13.
- 13) Matsuura R, Hamano S, Daida A, Nonoyama H, Kubota J, Ikemoto S, Hirata Y, Koichihara R, Kikuchi K, Yamaguchi A, Sakuma H, Takahashi Y. Serum matrix metalloproteinase-9 and tissue inhibitor of metalloproteinase-1 levels in autoimmune encephalitis. *Brain Dev* 2020; 42(3) : 264-9.
- 14) Matsuura R, Hamano S, Kubota J, Daida A, Ikemoto S

- to S. Hirata Y, Koichihara R. Efficacy and safety of pyridoxal in West syndrome: a retrospective study. *Brain Dev* 2019; 41(5) : 413-9.
- 15) Mitani Y, Tsuda E, Kato H, Higaki T, Fujiwara M, Ogawa S, Satoh F, Nakamura Y, Takahashi K, Ayusawa M, Kobayashi T, Ichida F, Matsushima M, Kamada M, Suda K, Ohashi H, Sawada, Komatsu T, Waki K, Shinoda M, Tsunoda R, Yokoi H, Hamaoka K. Emergence and characterization of acute coronary syndrome in adults after confirmed or missed history of Kawasaki disease in Japan: a Japanese nationwide survey. *Front Pediatr* 2019; 7 : 275.
- 16) Morita H, Tamari M, Fujiwara M, Motomura K, Koezuka Y, Ichien G, Matsumoto K, Ishizaka K, Saito H. IgE-class-specific immunosuppression in offspring by administration of anti-IgE to pregnant mice. *J Allergy Clin Immunol* 2019; 143(3) : 1261-4. e6.
- 17) Morita H, Kubo T, Ruckert B, Ravindran A, Soyka MB, Rinaldi AO, Sugita K, Wawrzyniak M, Wawrzyniak P, Motomura K, Tamari M, Orimo K, Okada N, Arae K, Saito K, Altunbulakli C, Castro-Giner F, Tan G, Neumann A, Sudo K, O'Mahony L, Honda K, Nakae S, Saito H, Mjosberg J, Nilsson G, Matsumoto K, Akdis M, Akdis CA. Induction of human regulatory innate lymphoid cells from group 2 innate lymphoid cells by retinoic acid. *J Allergy Clin Immunol* 2019; 143(6) : 2190-201. e9
- 18) Oson S, Fukushima K, Yano M, Kakazu M, Sano H, Kato Y, Shinkoda Y, Shinoda K, Mori N, Adachi S. Supportive care for hemostatic complications associated with pediatric leukemia: a national survey in Japan. *Int J Hamatol* 2019; 110(6) : 743-50.
- 19) Umeda C, Fujinaga S, Endo A, Sakuraya K, Satoshi A, Hirano D. Preventive effect of tonsillectomy on recurrence of Henoch-Schönlein purpura nephritis after intravenous methylprednisolone pulse therapy. *Tohoku J Exp Med* 2020; 250(1) : 61-9.
- 20) Urashima M, Mezawa H, Okuyama M, Urashima T, Hirano D, Gocho N, Tachimoto H. Primary prevention of cow's milk sensitization and food allergy by avoiding supplementation with cow's milk formula at birth: a randomized clinical trial. *JAMA Pediatr* 2019; 173(12) : 1137-45.
- 21) 永倉顕一, 佐藤さくら, 柳田紀之, 海老澤元宏. 食物アレルギー 経口免疫療法の長期経過. *日小児アレルギー会誌* 2019; 33(1) : 68-74.
- Ⅱ. 総 説
- 1) 鈴木亮平, 勝沼俊雄. 【小児気管支喘息の治療－ガイドラインをふまえて－】薬物療法のポイント 抗喘息薬の選択・使い分け. *小児臨* 2019; 72(2) : 137-41.
- 2) 溜 雅人, 松本健治, 森田英明. 【小児科医に必要な免疫の知識】総論 免疫系を構成する細胞・細胞亜群とその機能 自然リンパ球. *小児内科* 2019; 51(8) : 1090-3.
- 3) 日本小児血液・がん学会血小板委員会: 高橋幸博, 宮川義隆, 森麻希子, 國島伸治, 東川正宗, 小林尚明, 笹原洋二, 前田尚子, 中館尚也, 別所文雄, 白幡 聡, 今泉益榮, 石黒 精. *小児難治性ITP治療ガイド*. *日小児血がん学会誌* 2019; 56(1) : 61-8.
- 4) 平野大志. 【DOHaD】早産低出生体重児における将来の慢性腎臓病の関連. *日新生児成育医学会誌* 2019; 31(2) : 341-4.
- 5) 平野大志. 【全身性疾患と腎 update】(第5章) 血液疾患 白血病・腎臓専門医の視点より. *腎と透析* 2019; 86(増刊) : 341-3.
- 6) 星野健司. 心室中隔欠損に対する経皮的カテーテル治療. *日小児循環器会誌* 2019; 35(2) : 125-6.
- 7) 堀向健太. スキンケア・アトピー性皮膚炎管理とアレルギー疾患発症予防. *日小児アレルギー学会誌* 2019; 33(3) : 316-25.
- 8) 堀向健太. 【アレルギー疾患 update－最新の治療動向と展望－】アレルギー疾患別に見た治療の現状と展望 アトピー性皮膚炎 小児アトピー性皮膚炎の診断と治療 update. *日臨* 2019; 77(1) : 66-71.
- 9) 宮田市郎. 【小児外来：どう診るか、どこまで診るか】成長 やせ (学童期以降). *小児臨* 2019; 72(増刊) : 1119-23.
- Ⅲ. 学会発表
- 1) Baba S, Akaike T, Shinjo S, Minamisawa S. Atrial cardiomyocyte-specific Pitx2c overexpression impaired sinus node function. American Heart Association (AHA) Scientific Sessions. Philadelphia, Nov.
- 2) Higurashi N. GABAergic failure in epileptogenesis -Dravet syndrome and more-. The 20th Annual Meeting of Infantile Seizure Society. Nagoya, May.
- 3) Ikemoto S, Hamano S, Daida A, Hirata Y, Matsuura R, Koichihara E, Nonoyama H. ¹²³I-*iomazenil* SPECT findings in cryptogenic West syndrome. The 20th Annual Meeting of Infantile Seizure Society. Nagoya, May.
- 4) Iikura K. Microrelief analysis of infantile eczema by using a fourier transform. 第68回日本アレルギー学会学術大会. 東京, 6月.
- 5) Inoue T, Matsumoto K, A, Matsuda A. C/EBP δ in human coronary artery endothelial cells may play an

- important role in the IVIG-refractoriness of Kawasaki disease. AAAAI (American Academy of Allergy Asthma & Immunology) 2020 Annual Meeting, San Francisco, Feb.
- 6) Ito R, Che X, Barnes EA, Cornfield DN. Constitutive expression of hypoxia inducible factor-1 α in pulmonary artery smooth muscle cells mitigates hypoxia-induced neonatal lung injury in mice. Pediatric Academic Societies (PAS) Meeting. Baltimore, Apr.
- 7) Kotake Y, Shimizu M. Report of thirteen congenital gastroIntestinal obstruction with abnormal umbilical cord at our hospital. Hot Topics in Neonatology. National Harbor, Dec.
- 8) Kubota J, Higurashi M, Hirano D, Isono H, Numata H, Suzuki T, Kakegawa D, Ito A, Yoshihashi M, Ito T. Predictive factors of recurrence of febrile seizures during same febrile illness. EAP (European Academy of Paediatrics) 2019 Congress. Porto, Sept.
- 9) Miwa S. Anti-complement factor H antibody which recognizes the N-terminus induces C3 glomerulonephritis. 18th Congress of the International Pediatric Nephrology Association. Venice, Oct.
- 10) Nagakura K, Yanagida N, Sato S, Miura Y, Nishino M, Takahashi K, Asaumi T, Ogura K, Ebisawa M. Three year follow up of low-dose peanut oral immunotherapy: symptoms rate during the first 3 months seemed to predict long-term outcomes. 第56回日本小児アレルギー学会学術大会. 千葉, 11月.
- 11) Suzuki R, Mori E, Sagara N, Iwasaki H, Aota A, Akashi K, Katsunuma T. Olfactory dysfunction in children with moderate to severe allergic rhinitis. EAACI (European Academy of Allergy and Clinical Immunology) Congress 2019. Lisbon, June.
- 12) Takemasa Y. Familial juvenile hyperuricemia in a 5-year-old boy with a novel mutation. 18th Congress of the International Pediatric Nephrology Association. Venice, Oct.
- 13) 岩橋めぐみ. アラニンスキャニング変異導入法によるPAX8 paired ドメインの系統的機能解析. 第23回小児分子内分沁研究会. 亀田, 8月.
- 14) 齋藤真希, 平野大志, 山崎幸太, 和田美穂, 保科宙生, 林田慎哉, 浦島 崇, 宮田市郎, 井田博幸. 超低出生体重児のマススクリーニング至適再検時期について. 第122回日本小児科学会学術集会. 金沢, 4月.
- 15) 本多隆也, 山岡正慶, 横井健太郎, 野中雄一郎, 秋山政晴, 柳澤隆昭. 無治療経過観察を行った低悪性度神経膠腫14例. 第61回日本小児血液・がん学会学術集会. 広島, 11月.
- 16) 松浦隆樹, 浜野晋一郎, 野々山葉月, 代田惇朗, 池本 智, 平田祐子, 小一原玲子. 小児期発症てんかん患者の成人医療機関への転医の現状と課題. 第53回日本てんかん学会学術集会. 神戸, 10月.
- 17) 宮田市郎, 和氣英一, 和田誠司. 胎児甲状腺腫性甲状腺機能低下症における胎内治療の有効性の検討. 第92回日本内分泌学会学術総会. 仙台, 5月.
- 18) 山岡正慶, 本多隆也, 秋山政晴, 野中雄一郎, 柳澤隆昭, 敷島敬悟. 眼症状を主訴に診断に至った小児腫瘍性疾患32例の機能予後の検討. 第37回日本眼腫瘍学会. 東京, 9月.
- 19) 田知本寛, 目澤秀俊, 奥山 舞, 浦島 崇, 平野大志, 後町法子, 浦島充佳. 生後3日間のミルク除去は牛乳アレルギーの発症を予防する. 第68回日本アレルギー学会学術大会. 東京, 6月.

IV. 著 書

- 1) Tamari M, Morita H. Section A: Structure and function of skin 2e: Skin immune system: innate lymphoid cell. In: Brockow K, Mortz C, eds. Atlas of Skin Allergy. Zurich: European Academy of Allergy and Clinical Immunology, 2020. p.16-7.
- 2) 日暮憲道. PART 2: <臨床編> ペランパネルによるてんかん治療の実際 2. 児童・小児のてんかんの特徴と治療: 加藤天美編. ペランパネルによるてんかん治療のストラテジー. 東京: 先端医学社, 2019. p.42-7.

V. その他

- 1) Seki M, Matsushima S, Yamaoka M, Honda T, Tokoro H, Akiyama M. A pediatric case of central skull base osteomyelitis caused by Streptococcus milleri group infection and mimicking malignancy. Childs Nerv Syst 2019 Dec 11. [Epub ahead of print]
- 2) Fujita S, Suzuki R, Sagara N, Aota A, Akashi K, Katsunuma T. Three cases of diffuse panbronchiolitis in children with a past history of difficult-to-treat bronchial asthma: a case report from a single medical facility. Allergol Int 2020 Mar 23. [Epub ahead of print]
- 3) 齋藤真希, 伊東 建, 山岡祥子, 細江 隼, 庄嶋伸浩, 門脇弘子, 宮田市郎. IGF-I 治療を施行した Rabson-Mendenhall 症候群の1例. 糖尿病 2019; 62(12): 755-62.